

要 望 書

坂本パーキングエリアへの スマートインターチェンジ設置について



【坂本パーキングエリア下り線工事用道路】

令和7年11月
熊本県八代市

国におかれましては、球磨川流域で発生しました令和2年7月豪雨災害に際し、発災直後から、迅速な先遣隊の派遣や早急な支援物資の提供、被災者の救助活動、道路の啓開や応急復旧、さらには仮設橋梁の設置など、全力で災害初期対応にご尽力いただきました。

更にその後におきましても、道路や橋梁などの本復旧に向け、最大限の取り組みを実施いただいておりますことに、心より深く感謝申し上げます。

豪雨災害により、本市の坂本地域では国道や県道といった幹線道路はもとより、市道などの生活道路も崩壊や土砂崩れ等により寸断され、さらには鉄道橋を含む4つの橋梁が流失し、一時的に多くの集落が孤立しました。

そのような中、発災直後から、九州縦貫自動車道の坂本パーキングエリアに臨時的な自動車の出入口を設置していただいたことにより、孤立した住民の救助や避難、被災状況の調査や復旧作業、さらにはボランティア活動などが可能となり、地域の復旧・復興に大きな役割を果たしました。

近年の異常気象に起因する集中豪雨や予測できない地震などにより、地域の道路が寸断されるような大規模災害の発生を想定した代替ルートの確保は、住民の救助や避難、緊急支援物資等の輸送のために必要不可欠であり、国土強靭化の一環をなすものであると改めて実感した次第です。

発災から5年が経過し、被災した坂本地域においては、復旧工事に加え緊急治水対策事業が本格化するのに伴い、球磨川両岸の道路に工事用車両の往来が増加するとともに、片側交互通行や迂回路通行に加え、夜間の全面通行止めが行われるなど、地域住民の生活への影響が危惧されていました。

そのような中、坂本パーキングエリアに接続する工事用道路を整備いただき、工事用車両だけでなく、地域住民および緊急車両等も利用できるようご配慮いただきましたことは、円滑な復旧活動の推進だけに止まらず、地域住民の安全性確保と利便性の向上にも大きく寄与しております。

現在、九州縦貫自動車道の八代インターチェンジから人吉インターチェンジまでの間は、38.5 kmと日本一距離が長い区間であり、その間に坂本地域が位置していることから、かねてより課題であった平時からの高速道路へのアクセス確保は、安全・安心な住民生活や利用者の利便性向上には、極めて重要であると再認識した次第です。

このような中、本市が策定した「八代市坂本町復興計画」及び「八代市坂本町復興まちづくり計画」に基づく『創造的復興』に向けたまちづくりにおいても、国道219号に加え恒久的なスマートインターチェンジの設置によるダブルネットワーク機能の強化は必要不可欠としております。さらには、急速な人口減少や高齢化が進む本市における将来の賑わいづくりとしても、観光振興や交流人口の拡大など、球磨川の恵まれた資源や地域の持つ潜在能力を最大限に発揮するためにはスマートインターチェンジの設置が必要であると考えております。

つきましては、下記の事項について特段の御高配を賜りますよう要望いたします。

記

1. 令和2年7月豪雨からの創造的復興に向けたまちづくりと将来の賑わいづくりを強力に推進するため、坂本パーキングエリアに接続した工事用道路を活用し、恒久的なスマートインターチェンジの設置をお願いしたい。

令和7年11月

八代市長 小野泰輔